

第2章 地域の概況

1. 位置と地勢

本市は京都府の北部、丹後半島に位置し、東西約 35km、南北約 30km の広がりを持ち、面積約 502km²を有している。沿岸部は山陰海岸国立公園、若狭湾国立公園に指定され、内陸部には標高 400～600m の山々が連なっている。

表 2-1-1 京丹後市の概要

位置	東西	約 35 km
	南北	約 30 km
	面積	501.84 km ²
京丹後市役所の位置	東経	135 度 03 分 49 秒
	北緯	35 度 37 分 15 秒
	京丹後市峰山町杉谷 889 番地	

資料：京丹後市市勢要覧



図 2-1-1 市位置図

2. 気象

本市における過去 10 年間の気温、降水量及び日照時間を表 2-2-1 に、年平均気温及び年降水量の推移を図 2-2-1 に、平成 17 年の気象の状況を表 2-2-2 及び図 2-2-2 に示す。本市の気候は、夏の気温が高く、冬の降雪量が多い日本海側気候に属している。なお、平成 17 年の年平均気温は 15.2℃、年間降水量は 2,257mm である。

表 2-2-1 気温、降水量及び日照時間

	年平均 気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	年降水量 (mm)	年間 日照時間 (時間)
平成 8 年	14.8	35.6	-2.5	1,847	1604.8
平成 9 年	15.4	35.6	-3.0	1,763	1635.1
平成10年	16.2	33.6	-3.1	1,938	1386.4
平成11年	15.7	35.5	-2.1	1,919	1482.6
平成12年	15.7	36.1	-1.0	1,345	1573.9
平成13年	15.3	35.2	-4.3	2,094	1524.8
平成14年	15.6	35.1	-2.0	1,885	1500.4
平成15年	15.1	34.2	-5.0	1,795	1336.5
平成16年	16.3	35.1	-4.3	2,113	1829.9
平成17年	15.2	34.9	-3.4	2,257	1620.9
平均値	15.5	35.1	-3.1	1,896	1549.5

資料：気象庁 間人観測所

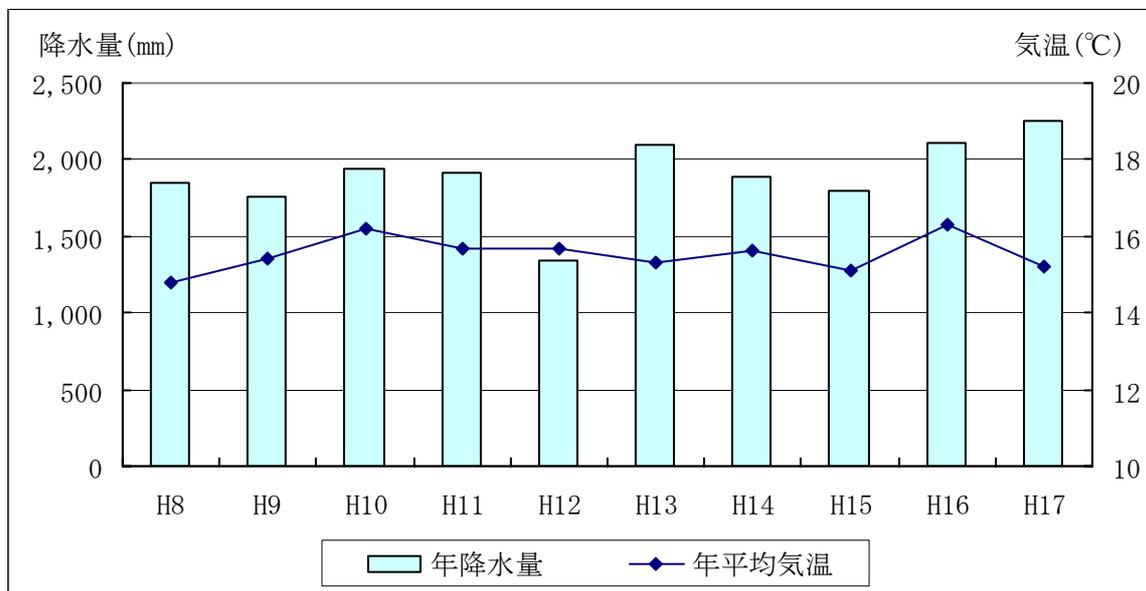


図 2-2-1 年平均気温及び年降水量の推移

表 2-2-2 気象の状況(平成17年)

	月平均 気温 (°C)	日最高 気温 (°C)	日最低 気温 (°C)	月降水量 (mm)	月間 日照時間 (時間)
1月	5.2	15.6	-1.4	219	70.5
2月	4.2	12.3	-3.1	291	37.5
3月	7.6	19.6	-1.0	143	120.6
4月	14.2	31.3	4.2	37	225.9
5月	16.6	27.2	9.9	91	220.5
6月	22.8	33.8	14.4	116	180.2
7月	24.9	32.8	20.5	151	124.8
8月	27.3	34.9	22.1	69	177.5
9月	24.3	32.4	17.9	110	170.1
10月	18.4	29.1	8.0	164	128.0
11月	13.0	21.2	5.5	189	116.4
12月	4.1	12.8	-3.4	677	48.9
通年	15.2	34.9	-3.4	2,257	1,620.9

資料：気象庁 間人観測所

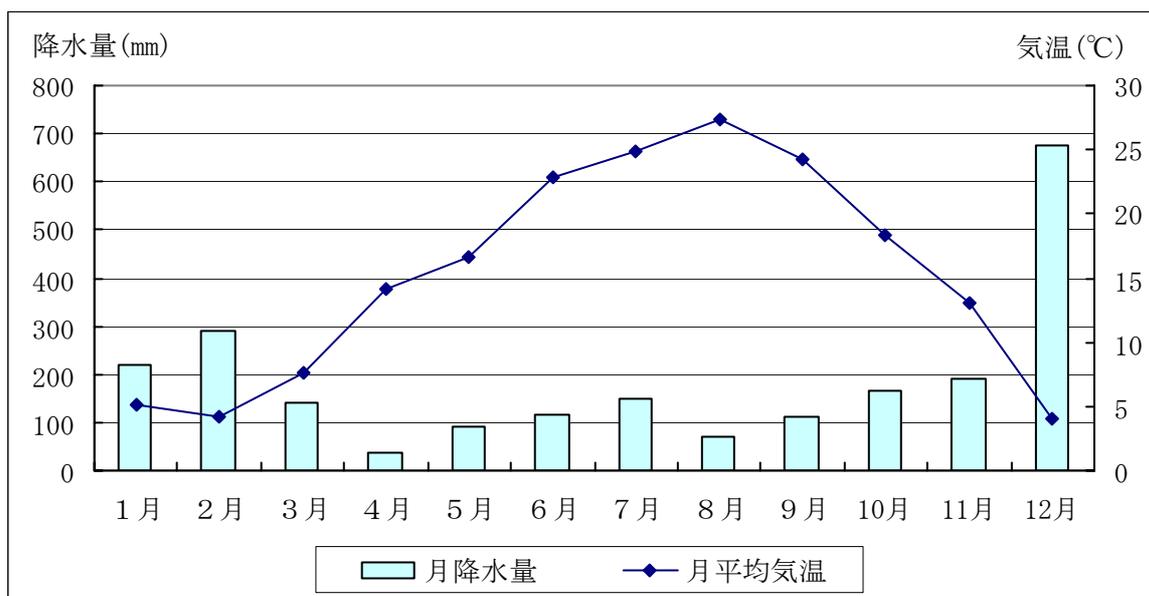


図 2-2-2 気象の状況(平成17年)

3. 河川

本市域には、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川等やこれらから分岐した支流が山間や市街地を流れ、日本海へ注いでいる。これらは、京都府が管理する2級河川と市の管理となる準用河川、さらに多くの普通河川とに区分される。主な河川の位置を図 2-3-1 に示す。

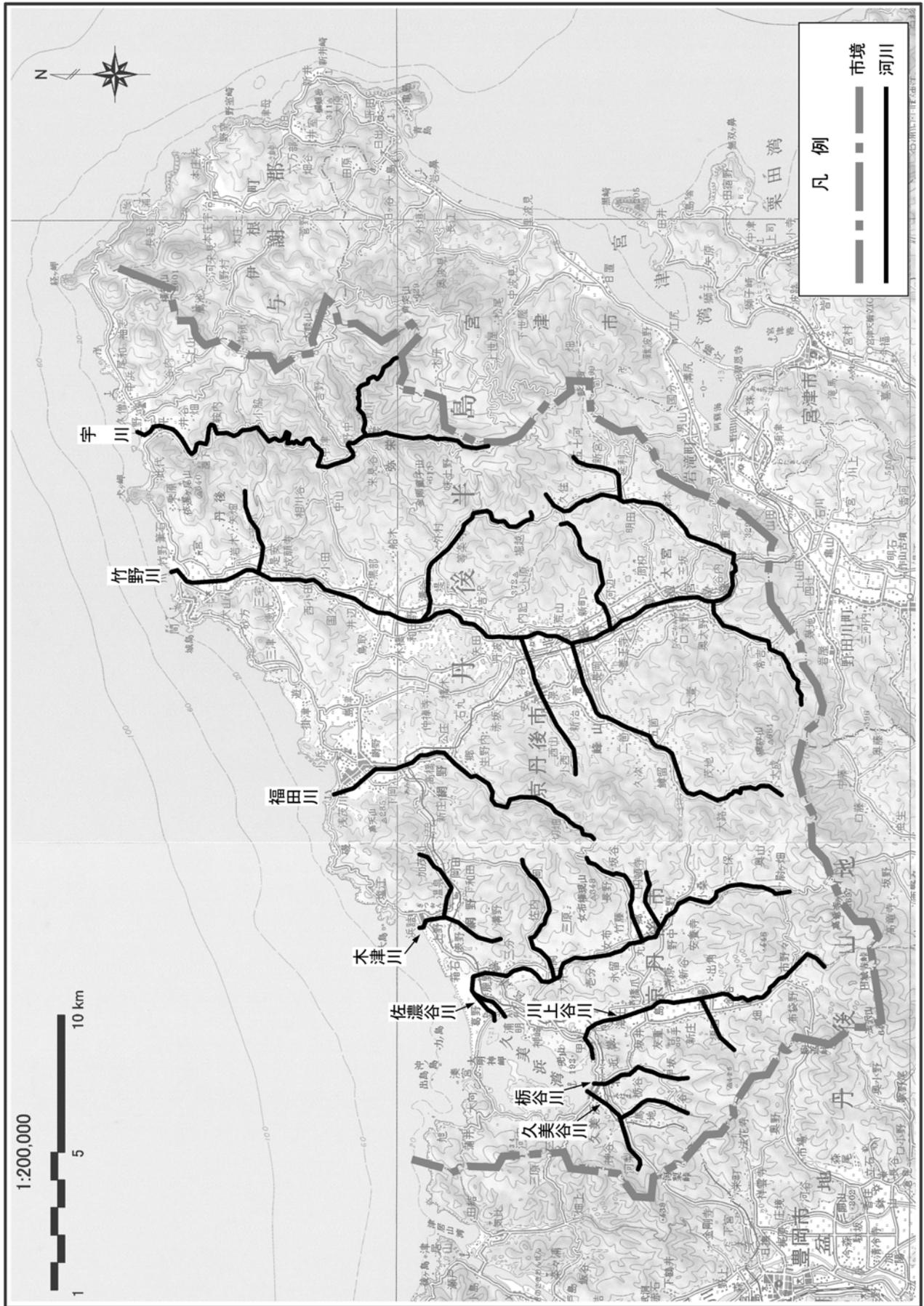


図 2-3-1 主な河川の位置

4. 沿革

本地域では、リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流が行われてきた。市内からは約 2,000 年前の中国貨幣や日本最古の紀年銘鏡、日本海側最大の前方後円墳などの遺物・遺跡が多く発見されており、独自の経済文化圏を形成し繁栄していたことがうかがわれる。近世には回船業や丹後ちりめんの生産が地域の産業を支え、今日では、新たに機械金属工業・観光産業が地域の発展を担いつつある。本市は、平成 16 年 4 月、峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜町が合併し、市制を施行した。

5. 人口

(1) 人口推移

本市の人口及び世帯数の推移を表 2-5-1 及び図 2-5-1 に示す。平成 18 年 3 月末現在、人口 64,289 人、世帯数 21,788 世帯となっている。平成 8 年度以降、人口は減少傾向にあるが、世帯数はやや増加傾向にある。

表 2-5-1 人口及び世帯数の推移

	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度
人口 (人)	68,584	68,185	67,782	67,462	67,163
世帯数 (世帯)	20,478	20,594	20,743	20,867	20,993
1 世帯当たりの 人数 (人)	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2
	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
人口 (人)	66,689	66,315	65,822	65,129	64,289
世帯数 (世帯)	21,152	21,267	21,422	21,522	21,788
1 世帯当たりの 人数 (人)	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0

※各年度 3 月末日現在

資料：京丹後市市民課

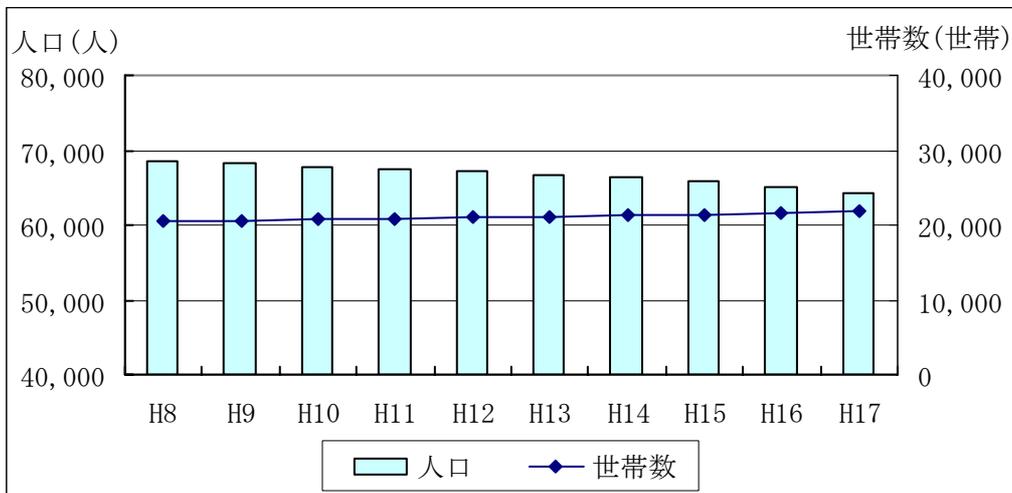


図 2-5-1 人口及び世帯数の推移

(2)人口動態

平成12年から平成16年における本市の人口動態（自然動態）を表2-5-2に示す。平成12年以降、死亡が出生を上回っており、少子化等による自然減が進んでいる。

表2-5-2 人口動態(自然動態)

単位：人

	自然動態		
	出生	死亡	増減
平成12年	634	747	-113
平成13年	567	715	-148
平成14年	567	729	-162
平成15年	540	734	-194
平成16年	521	758	-237

※各年1月～12月 資料：京都府 保健福祉統計年報

6. 市街地・集落

本市における平成8年度から平成17年度の地区別人口の推移を表2-6-1に示す。平成8年度以降、大宮以外の地区の人口は減少傾向にある。また、大宮地区の人口についても平成15年を境に減少傾向にある。

表2-6-1 地区別人口の推移

単位：人

	総数	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
平成8年度	68,584	14,195	10,879	16,929	7,739	6,242	12,600
平成9年度	68,185	14,062	10,959	16,765	7,680	6,230	12,489
平成10年度	67,782	13,986	10,987	16,631	7,539	6,273	12,366
平成11年度	67,462	13,878	11,065	16,542	7,456	6,229	12,292
平成12年度	67,163	13,865	11,050	16,426	7,368	6,191	12,263
平成13年度	66,689	13,801	11,038	16,291	7,296	6,091	12,172
平成14年度	66,315	13,793	11,074	16,185	7,177	6,063	12,023
平成15年度	65,822	13,688	11,087	16,051	7,070	6,048	11,878
平成16年度	65,129	13,525	11,048	15,932	6,982	5,953	11,689
平成17年度	64,289	13,411	10,968	15,707	6,844	5,863	11,496
H8 - H17	-4,295	-784	89	-1,222	-895	-379	-1,104

※各年度3月末日現在

資料：京丹後市市民課

7. 産業

(1) 産業別人口

本市における産業大分類別就業者数を表 2-7-1 及び図 2-7-1 に示す。平成 17 年現在、本市における産業別就業者割合は、第 3 次産業が 52.8%であり最も多い。

表 2-7-1 産業大分類別就業者数

		単位：人
		平成17年
総	数	33,111
第 1 次 産 業		3,622
第 2 次 産 業		11,891
第 3 次 産 業		17,473
分 類 不 能		125
就業者割合	第 1 次産業	10.9%
	第 2 次産業	35.9%
	第 3 次産業	52.8%
	分類不能	0.4%

※10月 1 日現在

資料：国勢調査

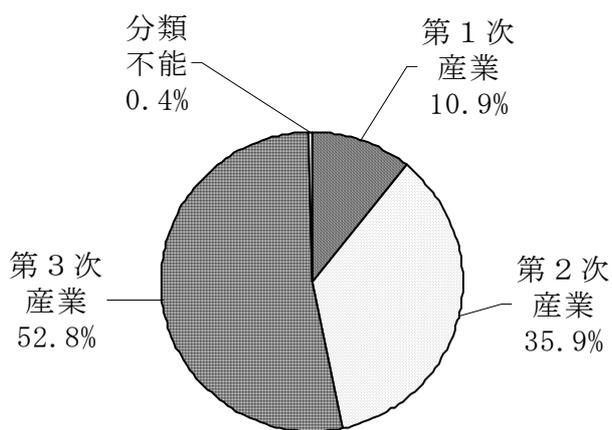


図 2-7-1 産業大分類別就業者割合

(2) 農業

本市における農家数、農家人口及び経営耕地面積の推移を表 2-7-2 に示す。昭和 55 年以降、農家数、及び農家人口の減少が著しい。

表 2-7-2 農家数、農家人口及び経営耕地面積の推移

	農家数 (戸)	農家人口 (人)	経営耕地面積			
			総数 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)
昭和55年	7,136	31,673	4,394	3,781	522	90
昭和60年	6,563	28,874	4,250	3,670	491	88
平成2年	5,588	24,576	4,070	3,503	475	91
平成7年	5,049	21,714	4,059	3,377	568	114
平成12年	4,526	19,459	3,957	3,264	587	106

※各年 2 月 1 日現在

資料：農林業センサス

(3) 林業

本市における森林面積の状況を表 2-7-3 に示す。

表 2-7-3 森林面積の状況

単位：ha

	総数	国有林	公有林	私有林
平成14年	37,323.76	1,196.06	2,884.82	33,242.88
平成15年	37,251.62	1,184.52	2,820.22	33,246.88
平成16年	37,244.34	1,184.52	2,376.61	33,683.21

※各年 4 月 1 日現在

資料：京都府林業統計

(4) 漁業

丹後半島の沖合は大変良い漁場であり、本市内には 13 の漁港が存在し、海面漁業、養殖業が営まれている。本市における漁業経営体数、海面漁業漁船隻数及び動力船合計トン数の状況を表 2-7-4 に示す。

表 2-7-4 漁業経営体数、海面漁業漁船隻数及び動力船合計トン数の状況

漁業経営体数 (経営体)	海面漁業漁船隻数 (隻)	動力船合計トン数 (t)
387	521	908

※平成15年11月 1 日現在

資料：漁業センサス

(5) 工業

本市における事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の推移を表 2-7-5 に示す。平成 2 年以降、事業所数及び従業者数の減少が著しい。

表 2-7-5 事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の推移

	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
平成 2 年	5,193	14,758	11,965,145
平成 7 年	4,226	12,456	9,291,371
平成 10 年	3,229	10,078	7,748,652
平成 12 年	2,861	9,482	8,025,997
平成 15 年	2,405	8,492	7,719,147

※各年 12 月 31 日現在

資料：工業統計調査

(6) 商業

本市における商店数、従業者数及び年間販売額の推移を表 2-7-6 に示す。商店数、従業者数及び年間販売額は、平成 3 年以降やや減少傾向にある。

表 2-7-6 商店数、従業員数及び年間販売額の推移

	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間販売額 (万円)
平成 3 年	1,460	5,493	13,751,951
平成 6 年	1,364	5,200	13,244,729
平成 9 年	1,279	4,447	12,965,946
平成 11 年	1,244	5,117	12,093,158
平成 14 年	1,143	5,102	10,755,049
平成 16 年	1,102	5,108	10,404,962

※平成 3, 6, 11 年は 7 月 1 日現在

資料：商業統計調査

※平成 9, 14, 16 年は 6 月 1 日現在

8. 文化財

本市の主な文化財及び記念物を表 2-8-1 及び表 2-8-2 に示す。かつて「丹後王国」として栄えた本市には、日本海側屈指の史跡群や貴重な出土品が多く存在する。

表 2-8-1 主な文化財及び記念物(1)

区分	名称	所在地	
国指定	史跡・遺跡	銚子山古墳 第一、第二古墳	網野町網野
		産土山古墳	丹後町竹野
		神明山古墳	丹後町宮
		函石浜遺物包含地	久美浜町湊宮
	指定考古資料	大田南 5 号墳方格規矩四神鏡	峰山町矢田・弥栄町和田野(町境)
		奈具岡遺跡出土品	弥栄町溝谷
		湯舟坂 2 号墳出土品	久美浜町須田
	建造物	縁城寺宝篋印塔	峰山町橋木 縁城寺
		本願寺本堂	久美浜町十楽 本願寺
	彫刻	木造千手観音立像	峰山町橋木 縁城寺
木造薬師如来及び両脇立日光・月光菩薩像		久美浜町円頓寺 円頓寺	
工芸品	石燈籠	大宮町周枳 大宮賣神社	
天然記念物	郷村断層(ごうむらだんそう)	網野町郷・生野内	
国登録	建造物	旧口大野村役場庁舎	大宮町口大野
		稲葉家住宅主屋	久美浜町土居
		稲葉家住宅長屋門	久美浜町土居
		稲葉家住宅南宝蔵	久美浜町土居
		稲葉家住宅北宝蔵	久美浜町土居
府指定	史跡・遺跡	湧田山古墳群	峰山町丹波・矢田
		大宮賣神社境内	大宮町周枳
		黒部銚子山古墳	弥栄町黒部
		遠處遺跡製鉄工房跡	弥栄町木橋
		高山12号墳	丹後町徳光
		湯舟坂 2 号墳	久美浜町須田
	指定考古資料	三坂神社墳墓群出土品	大宮町口大野
		奈具岡北 1 号墳出土品	弥栄町溝谷
		大田南 2 号墳出土品	峰山町矢田・弥栄町和田野(町境)
		銅経筒	久美浜町円頓寺
	建造物	本殿	網野町木津 売布神社
		本殿	久美浜町新町 神谷神社
		参考館(旧久美浜県庁舎玄関棟)	久美浜町新町 神谷神社
		丹後震災記念館	峰山町室
	絵画	絹本著色松井康之像	久美浜町新町 宗雲寺
		絹本著色松井与八郎像	久美浜町湊宮 宝泉寺
		絹本著色当麻曼荼羅図	久美浜町十楽 本願寺
	彫刻	木造阿弥陀如来立像	久美浜町十楽 本願寺
		木造薬師如来及び両脇侍像	丹後町成願寺 成願寺
	工芸品	金銅装笠(附 金銅装笠残闕 1 個)	峰山町橋木 縁城寺
		石燈籠	弥栄町溝谷 溝谷神社
		熊野十二社権現懸仏	久美浜町円頓寺 円頓寺
		木造扁額	久美浜町西本町 如意寺
	古文書	円頓寺惣門再興勸進状	久美浜町円頓寺 円頓寺
	歴史資料	玄圃霊三関係資料	久美浜町新町 宗雲寺
	無形民俗	黒部の踊子	弥栄町黒部
		野中の田楽	弥栄町野中
		舟木の踊子	弥栄町舟木

資料：京丹後市市勢要覧

表 2-8-2 主な文化財及び記念物(2)

区分	名称	所在地
府指定	名勝	庭園 久美浜町新町 宗雲寺
	天然記念物	アベサンショウウオ基準産地 大宮町善王寺
	文化財 環境保全 地区	多久神社文化財環境保全地区 峰山町丹波・矢田
		竹野神社文化財環境保全地区 丹後町宮
神谷神社文化財環境保全地区 久美浜町新町		
府登録	指定考古資料	カジヤ古墳出土品 峰山町杉谷
	建造物	本殿 峰山町丹波 多久神社
		興法寺本堂 弥栄町小原 興法寺
		本殿 丹後町宮 竹野神社
		末社齋宮神社本殿 丹後町宮 竹野神社
		中門 丹後町宮 竹野神社
		神門 久美浜町新町 神谷神社
		境内社八幡神社本殿 久美浜町新町 神谷神社
		鳥居 久美浜町新町 神谷神社
	本殿 網野町浅茂川 日吉神社	
	絵画	方丈障壁画(長沢芦州筆) 峰山町五箇 慶徳院
		絹本著色釈迦十六善神像 大宮町谷内 岩屋寺
		絹本著色地藏菩薩像 大宮町谷内 岩屋寺
		絹本著色五大尊像 大宮町谷内 岩屋寺
		絹本著色毘沙門天像 大宮町谷内 岩屋寺
		紙本著色齋宮大明神縁起 丹後町宮 竹野神社
		紙本著色等楽寺縁起 丹後町宮 竹野神社
	彫刻	木造阿弥陀如来坐像 峰山町鱒留 全徳寺
	古文書	本願寺文書 久美浜町十楽 本願寺
	無形民俗	竹野のテンキテンキ 丹後町竹野
		遠下のちいらい踊 丹後町遠下
		大山の刀踊 丹後町大山
		市野々しょうぶ田植 久美浜町市野々
		甲坂の三番叟 久美浜町甲坂
		板谷の三番叟 久美浜町板谷
		河梨の十二灯 久美浜町河梨
		布袋野の三番叟 久美浜町布袋野
		丹波の芝むくり 峰山町丹波
		五箇の三番叟 峰山町五箇
	周積の三番叟・笹ばやし・神楽 大宮町周積	
	天然記念物	アベサンショウウオ 地域を定めず

資料：京丹後市市勢要覧

9. 交通

本市内の交通の状況を図 2-9-1 に示す。

市内の主要道としては、国道 178 号、312 号、482 号が市内を環状に走り、これを補完する形で、府道及び市道が連絡している。

公共交通機関については、京阪神方面への主要なアクセスとなっている北近畿タンゴ鉄道が整備されており、京都・大阪方面へ直通特急が運行されている。また、路線バスについては、民間の丹後海陸交通が定期路線バスを運行しており、久美浜及び弥栄の一部地域は、市営バスを運行している。

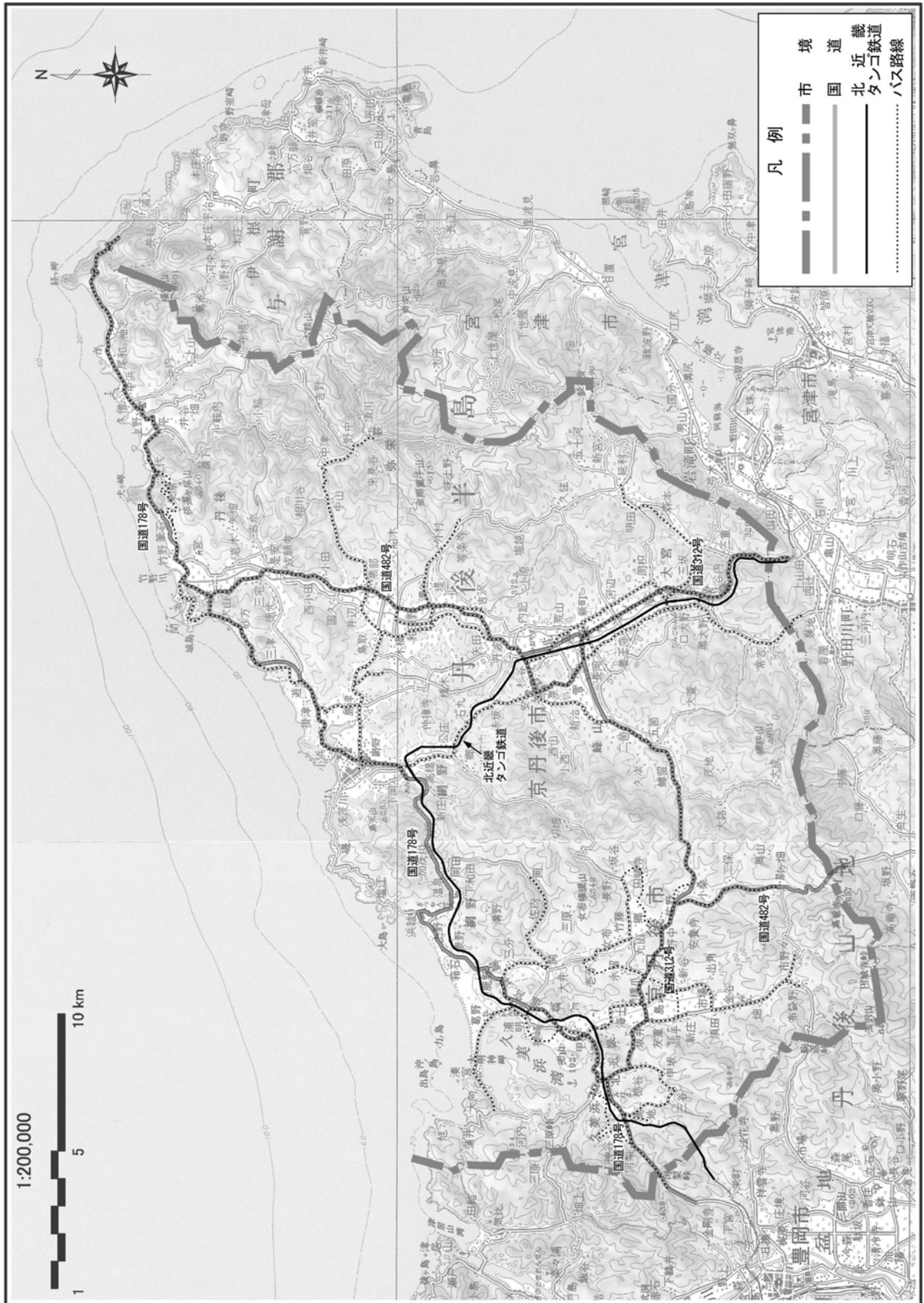


図 2-9-1 交通の状況

10. 観光

本市の観光入込客数及び観光消費額の推移を表 2-10-1 に示す。観光については、年間約 200 万人の入込客があるが、近年は伸び率が鈍化し、観光消費額も減少傾向を示している。

表 2-10-1 観光入込客数及び観光消費額の推移

	入込客数 (人)	消費額 (千円)
平成12年	2,133,142	9,668,745
平成13年	2,214,087	10,058,090
平成14年	2,153,184	9,574,856
平成15年	2,075,782	8,721,932
平成16年	2,037,753	8,281,407

資料：京都府観光・商業室

11. 土地利用

(1) 土地利用状況

本市の土地利用状況（課税の対象にならない土地を除く）を表 2-11-1 に示す。平成 16 年現在、山林の占める割合が最も多く、次いで田、畑の順となっている。

表 2-11-1 土地利用状況

	面積 (千㎡)	割合 (%)
田	40,286	25.8
畑	15,464	9.9
宅地	11,344	7.3
池沼	14	0.0
山林	79,774	51.2
原野	6,436	4.1
雑種地	2,561	1.6
総面積	155,879	100.00

※平成16年1月1日現在

※課税の対象にならない土地を除く。

資料：京都府地方課 固定資産に関する概要調書

(2) 土地利用計画

第1次京丹後市総合計画では、市域の土地利用について、特性の類似性、連続性、集積性等に配慮し、以下に示すゾーン区分を行い、それぞれの特性に即した土地利用を図ることとしている。図2-11-1に土地利用構想図を示す。

①交流わくわくゾーン（観光・水産業）

海岸部の連続性、久美の浜、琴引浜、てんきてんき村を始めとする観光、レジャー拠点、山陰海岸国立公園、若狭湾国定公園に指定された景勝、数多く点在する温泉等といった海岸沿いの資源を活かし、また、水産業の振興を図る中で、観る・食べる・学ぶといった多様な形での海岸の魅力を強化する。

このことで、観光振興に資するもてなしの拠点、人々の健康増進につながるスポーツ、リフレッシュの空間を形成し、市内外の人々の多様な交流あふれるゾーンを形成する。

②安らぎほのぼのゾーン（医療・福祉・農業）

丹後国営開発農地、砂丘畑を中心とした野菜、フルーツといった多彩な農産品を活用した農業の振興を図ると共に、滞在・体験型農業などによる交流の場づくりを進める。

また、医療・福祉機能の強化、関連機関との連携を図る中で、豊かな田園環境の中で心身ともに安らげるゾーンを形成する。

③体験ふれあいゾーン（森林・高原）

ブナ林、野間川溪谷に代表されるありのままの自然を守り、ふれあい、体験しながら学べる自然学習拠点づくりを進める。

また、奥山自然体験公園、山村体験交流センター、天女の里等の山村体験型施設や、スイス村、碓高原等の交流拠点施設を活用し、市内外の人々が森林・高原の自然を体験し、また、健康的な活動を行えるゾーンを形成する。

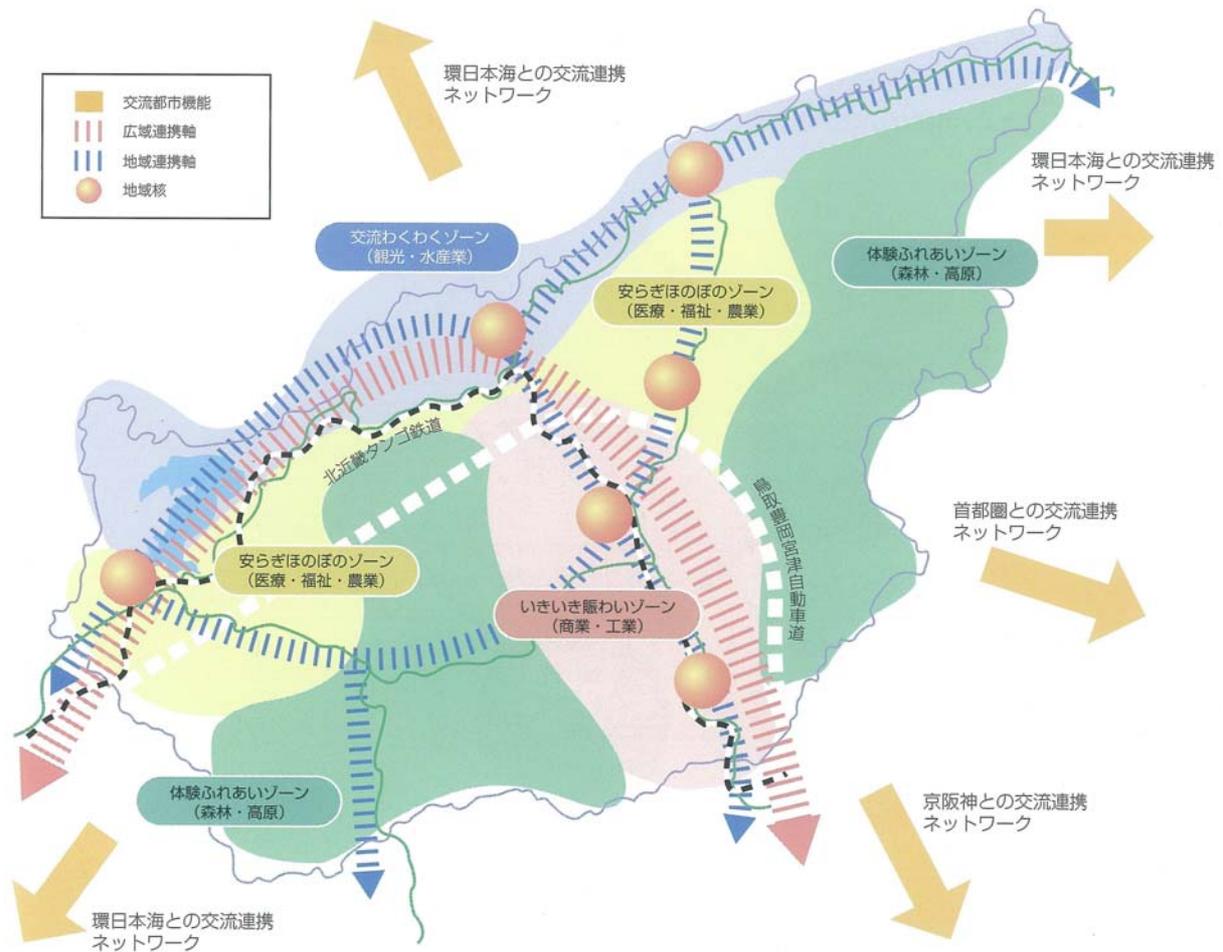
④いきいき賑わいゾーン（商業・工業）

既存の工業の高度化を図ると共に、京都府織物・機械金属振興センター等と連携する中、新たな産業創造を含めた工業振興の拠点づくりを進める。

また、既存の商業集積の高度化、活性化を図ると共に、駅前の整備等を進める等、京阪神地域等からの玄関口としてふさわしい機能を充実させる。

この事で、市民がいきいきと働き、市内外の人々で賑わいあふれるゾーンを形成する。

資料：第1次京丹後市総合計画



資料：第1次京丹後市総合計画

図 2-11-1 土地利用構想図

(3) 都市計画

本市の都市計画区域は、峰山町全域と網野町の一部となっているが、これは合併以前の旧町の都市計画を継承したもので、市街地形成を図る上でアンバランスな問題が生じている。今後、市全体として地域バランスがとれた適正な土地利用の規制・誘導を図るために、都市計画の見直しが行われる見込みである。都市計画区域面積を表 2-11-2 に示す。

表 2-11-2 都市計画区域面積

都市計画区域名	都市計画区域 (ha)
峰山	6,745
網野	1,313

※平成17年3月31日現在

資料：京都府都市計画課

12. 開発・将来計画

(1) 第1次京丹後市総合計画

本市では、「ひと みず みどり 歴史と文化が織りなす交流のまち」を目指す将来像とし、基本理念を以下のように設定している。

地域力

美しい海にのぞみ、緑豊かな山に抱かれた自然環境や古代丹後王国を始めとする固有の歴史・文化は、京丹後市の大きな特色であり、共有の財産である。

この「恵み」を京丹後市の宝として次世代に引き継ぐと共に、自然の安らぎに癒される暮らしの確保や、自然や歴史・文化を大切にする事によって地域の活力が持続的に発展する取り組みなど、新しい時代の日本や世界に誇れるまちづくりを目指す。

このため、丹後の豊かな自然と資源を背景に、市民、事業者、行政がその役割を適切に分担する事により、地域が持続的に発展する「地域力」を高める。

安心力

少子高齢化の進行に伴って、福祉や健康・医療に対する市民ニーズが高くなっている中で、保健・医療・福祉サービスの充実・強化と、地域福祉への市民の主体的な参加等によって、子どもが健全に育ち、女性が安心して働く事ができ、高齢者や障害者が安心と尊厳を持って社会に参加できるまちづくりを目指す。

また、元気のある長寿社会を支える基盤は健康にあり、保健・医療体制の充実を図ると共に、京丹後市の特色を活かしながら、市民の主体的な健康づくりの推進を目指す。

このため、保健・医療・福祉の連携と、一人ひとりが互いに支え合う地域福祉の推進を通じて、誰もが健やかで安心して暮らせる「安心力」を高める。

活接力

市民ニーズにおいて雇用の確保とにぎわいの創出が大きな課題となっていることから、既存の産業の振興はもとより、産学官の連携による新たな産業の育成・誘致を進めていく。また、京丹後市の財産である自然の恵みの活用や、交流人口の増大による各種産業の活性化を目指す。

このような活性化の基盤として、交通・情報などの交流基盤の強化を進め、京阪神や環日本海、首都圏との交流連携強化を目指す。

また、このような活性化を担う人材を育成するため、市民自らが産業・文化・生涯学習など様々な面で創造的な活動を行える環境づくりを進めると共に、創造性・自主性・個性等を重視した教育環境の充実等、未来の京丹後市を担う豊かな人材の育成を目指す。

このため、雇用の確保とにぎわいの創出により、地域・経済の活性化を生み出し、成長していく「活接力」を高める。

資料:第1次京丹後市総合計画

(2) 主な開発計画

計画中の本市の主な開発計画は、以下の通りである。

・新工業団地の整備

現在、市内に5箇所の工業団地があるが、平成21年度の分譲開始を目指し新たな工業団地の整備を行う予定としている。